

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

編輯局報情

週報

號日三十月五

日本世界觀と新秩序建設
 西南太平洋作戰の進展
 ビルマ進攻作戰
 マダガスカル島問題
 市町村會議員選舉に就て

292號

昭和十七年五月十三日發 郵務特認可 毎週一回水曜日發行

五錢

週

報

昭和十七年五月十三日發 郵務特認可 毎週一回水曜日發行

内閣印刷局印刷發行

べるし道の賛翼民は報週

のたなあ で円一

券債國報別特

円一枚一

蓄貯謝感争戰亞東大

まて日十三月五より日十二月四 出賣

行銀業勸本日・省信遞・省藏大

(判LA5 | 格規定國はさき大の書本)

露光量違いにより重複撮影

大東亞戦争の必勝と 建設の必成を期し 舉國固き結束の下 一路國內體制強化へ

週報

第二九二號
五月十三日

日本世界観と
世界新秩序の建設 文部省…二

コレヒドール要塞の陥落と
ビルマ作戦の進展 大本營陸軍報道部…九

西南太平洋作戦の進展
大本營海軍報道部…四

市町村議員の選挙について
内務省…七

戦時下の結婚 厚生省…三

マダガスカル島問題 ……六

週日誌

五月十日
 ◀英軍、佛領マダガスカル島
 へインジェに侵攻
 五月十一日
 ◀皇軍、マンダレーを完全占領
 ◀日本銀行の改組なる
 五月十二日
 ◀日泰間に國決議の取極めなる
 ◀選挙の棄権率は一割六分八
 ◀臨時議會を五月二十五日召集
 ◀前日二日の頁、情報局発表
 ◀選挙の全當選者決定
 ◀大東亞建設議會第二回總會
 を開催
 ◀汪國民政府主席、滿洲國訪問
 五月十三日
 ◀第四十回(第五十二回)支那事
 變生存者および第五十二回(第五
 十三回)支那事變論功行賞の
 御沙汰あらせらる
 ◀陸軍部、コレヒドール島
 の各代表招請懇談會を首相官
 邸で開催

五月七日
 ◀英軍、佛領マダガスカル島
 へインジェに侵攻
 五月八日
 ◀皇軍、マンダレーを完全占領
 ◀日本銀行の改組なる
 五月九日
 ◀日泰間に國決議の取極めなる
 ◀選挙の棄権率は一割六分八
 ◀臨時議會を五月二十五日召集
 ◀前日二日の頁、情報局発表
 ◀選挙の全當選者決定
 ◀大東亞建設議會第二回總會
 を開催
 ◀汪國民政府主席、滿洲國訪問
 五月十日
 ◀第四十回(第五十二回)支那事
 變生存者および第五十二回(第五
 十三回)支那事變論功行賞の
 御沙汰あらせらる
 ◀陸軍部、コレヒドール島
 の各代表招請懇談會を首相官
 邸で開催

露光量違いにより重複撮影

大東亞戦争の必勝と 建設の必成を期し 舉國固き結束の下 一路國內體制強化へ

週報

第二九二號
五月十三日

日本世界觀と

世界新秩序の建設

文部省

コレヒドール要塞の陥落と

ビルマ作戦の進展

大本營陸軍報道部

西南太平洋作戦の進展

大本營海軍報道部

市町村會議員の選挙について

内務省

戦時下の結核

厚生省

マダガスカル島問題

外務省

週 間 日 誌

五月一日(金)

▼英軍、佛領マダガスカル島

▼日本銀行の改組なる

▼日泰間に國決濟の取極めなる

▼総選挙の棄権率は一割六分八

▼臨時議會を五月二十五日召集

▼大東亞建設會議第二次總會

▼江國民政府主座、滿洲國訪問

▼第四十回(第五十二回)支那事

▼陸海軍部隊、コレヒドール島

▼英軍、佛領マダガスカル島

▼日本銀行の改組なる

▼日泰間に國決濟の取極めなる

▼総選挙の棄権率は一割六分八

▼臨時議會を五月二十五日召集

▼大東亞建設會議第二次總會

▼江國民政府主座、滿洲國訪問

▼第四十回(第五十二回)支那事

▼陸海軍部隊、コレヒドール島

▼英軍、佛領マダガスカル島

▼日本銀行の改組なる

▼日泰間に國決濟の取極めなる

▼総選挙の棄権率は一割六分八

▼臨時議會を五月二十五日召集

▼大東亞建設會議第二次總會

▼江國民政府主座、滿洲國訪問

▼第四十回(第五十二回)支那事

▼陸海軍部隊、コレヒドール島

▼英軍、佛領マダガスカル島

▼日本銀行の改組なる

▼日泰間に國決濟の取極めなる

▼総選挙の棄権率は一割六分八

▼臨時議會を五月二十五日召集

▼大東亞建設會議第二次總會

▼江國民政府主座、滿洲國訪問

▼第四十回(第五十二回)支那事

▼陸海軍部隊、コレヒドール島

▼英軍、佛領マダガスカル島

▼日本銀行の改組なる

▼日泰間に國決濟の取極めなる

▼総選挙の棄権率は一割六分八

▼臨時議會を五月二十五日召集

▼大東亞建設會議第二次總會

▼江國民政府主座、滿洲國訪問

界として制覇されなければならない。

のである。それ故に正義・人道を唱へながら、他民族の住む土地をば、発見と稱して、撞きに領有し、原住民を壓制し、資源を搾取することが當然とされるのである。かくて強大なる國家は弱小なる國家、民族を支配壓制し、口にせられる世界の平和とは名のみであつて、いはゆる國際的な、強大國相互の利害の打算による便宜的協約に頼つて僅かに維持されるばかりは有様となつてゐる。

かくる世界觀に立つ米英的世界秩序が、如何に矛盾と欺瞞とに満ちたものであるかは、彼等の東亞侵略史を見れば思ひ半ばに過ぎるものがあらう。しかしてかくる世界觀に基づく秩序の下に、世界恒久の平和が期し得られるものでないことは、ヴェルサイユ條約後幾何もなくして、今次の歐洲戰亂の勃發をみたことが雄辯にこれを物語つてゐる。

つてゐる。

要するに、かくる世界觀に立つ限り、たとひどのやうな對策施設を講じようとも、究極における對立關係は決して克服されるものではない。かくては、古來の賢者が求めた平和の世界は結局一片の理想たるに止まり、人間は永遠に不安と苦惱とに満ちた生活を受けざるを得ないであらう。

かくて西洋においては、第一次歐洲大戰後、自由主義・民主主義が世界秩序の最高の原理としてその權威を振ひ、相剋摩擦がいよゝ激しくなり、さらに徹底的なる唯物主義に基づく共產主義運動が起つた。

こゝにおいて、一方、西洋文明の没落が叫ばれると共に、他方これらの思想を是正して、西洋的舊秩序を打開し、新秩序を建設するために、民族國家と國民文化とを基礎とする全體主義世

界觀が獨伊を中心として唱へられ、各種の方策が講ぜられつゝある。

なほ他に西洋においては従來からキリスト教的世界觀があり、また狹義の哲學的世界觀もある。しかしながら前者は超越的な神の攝理を根源とし、後者は觀念的・理念的なる世界を想定するもので、いづれも人間の現實的な國家生活から遊離した抽象的な理論に傾き、または隨してゐる特殊な世界觀であつて、事理一體の現實の世界を十分に指導することはできないのである。

日本世界觀の本義

こゝにおいて、今日の世界的轉換期に當り、世界秩序の更新の上で、眞に現實を指導するに足る最高不動の世界觀が求められてゐるのであるが、吾人はそれはまさに日本世界觀を指して他にはないことを確信する。日本世界觀

は具體的、現實的な事理一體の世界を現實具體において把握するものであり、悠久なる我が國史を貫いて、ゆるとゆるなき皇國の道として具現せられ來つたところのものである。

われ／＼日本人は、その生命の淵源を遠く伊弉諾尊、伊弉冉尊の二尊に奉り、畏くも皇靈を初め奉り、國土と祖を同じうするといふ國家的信念の傳承を負うて生まれ、常に皇靈を宗家と仰ぎ奉る家族國家の中に育まれ來つてゐる。

御歴代天皇の御聖徳は宏大無邊であつて、仁恕の化下に冷く君民一體の國家が生成發展し、古來、外來民族の來り仕へるものも少くなかつたが、すべて皇化の下に渾然として皇國民となつて融合せられてゐる。

かくる歴史の現實と環境の中に育まれたわれ／＼日本人は、天皇に歸し

奉り、祖孫一體の信念の下に、永遠の統一を世界觀の根源として、自他一如の大和に生き、生成發展の一端を辿つて今日に及んでゐる。かくてわれ／＼國民は、皇靈をばすすべての生命の歸一するところとして仰ぎ奉り、それ／＼分に應じて君國に奉仕し、八紘爲宇の天業を發奮し奉つて來たのである。

他面から考察すれば日本世界觀の中核を成してゐるものは、最も自然な、また現實的な生む生まれるの關係である。即ち神と人と自然とは祖を同じうするものとせられ、國の生活において根本となるものは、君臣の關係であつて、列聖の義は君臣にして、情は父子と思召給ふ大御心に包まれて、君民一體の實があらがり、また家の生活においては親子の關係を根本とする家長中心の家族制度が保たれてゐる。

し給ひ、臣民は天皇を「おほやけ」と仰ぎ奉つて純忠のまことを捧げ、父祖は子孫を鞠育してその忠誠と繁榮とを祈念し、子孫は父祖を敬仰慕して孝に生きんとする。かくる君臣父子の關係において自ら發展する人倫の道が長養せられ、君即國、國即家としての世界に比なき道義國家が形作られてゐる。かくて生む生まれるの關係を中核とする日本世界觀を貫くものは、永遠の統一であり、大和の精神である。

大和の世界の具現

和は眞の融合であつて、日常離るべからざる人倫の道である。一個人、或ひは一國家が、飽くまで自己を主として自我を主張する場合は、矛盾對立を調整緩和するための協同・妥協・犠牲等はあるであらうが、それは眞の和ではな

大東亞新秩序の建設は大東亞の諸國家・諸民族をして各、そのところを得しめ、その特性を發揮せしめつゝ、大東亞全體の發展隆昌を圖らんとするものであるが、このことは延いて正しき世界秩序、正しき世界文化を創造することであり、實に日本世界觀の顯現である。

日獨伊三國條約締結に當り、煥發あらせられた詔書には

大義ヲ八紘ニ宣揚シ坤輿ヲ一宇ヲラシムルハ實ニ皇祖皇宗ノ大訓ニシテ朕ガ夙夜眷々措カザル所ナリ

と宣はせられ、また

惟フニ萬邦ヲシテ各、其ノ所ヲ得シメ兆民ヲシテ悉ク其ノ堵ニ安センシムルハ曠古ノ大業ニシテ前途甚ダ遠シク遠ナリ爾臣民益々國體ノ觀念ヲ明徴ニシ深ク謀リ速ク慮リ協心戮力非常ノ時局ヲ克服シテ天壤無

窮ノ皇運ヲ扶翼セヨ

と仰せられてある。皇國日本の大使命はこの聖旨に拜して附らかである。

まことに八紘を掩うて宇と爲すわが露國の精神こそ、あらゆる對立・相剋を止揚して萬物を包容するものである。かくて前述の如く、日本世界觀は米英的世界觀と單に對立するものではなく、これを超克するものであつて、その意味において眞に正しき世界的意義を有つ世界觀といふべきものである。

むすび

しかしながら、こゝに特に注意すべきは、日本世界觀は飽くまで天皇に歸一する國家日本をその立脚地とする世界觀であつて、抽象的觀念的世界に對する超越的世界觀ではないことである。従つて日本世界觀は具體的な國家存立の基礎の上に立つべきことを忘れ

てはならぬ。

神武天皇極原御奠都の詔には、
上は則ち乾靈の國を授けたまふ徳に答へ、下は則ち皇孫の正を養ひたまひし心を弘めむ。然して後に六合を兼ねて以て都を開き八紘を掩ひて宇と爲むこと、亦可からずや。

と仰せられてある。皇孫の養正の御心は國民としても須臾も離るべからざるところである。

内に自らの徳を養ふ皇國日本としての儼たる國家的存在があればこそ、日本世界觀が世界的にその眞價を發揮し得るのである。もしこれ國內になほ米英的世界觀に基づく弊風の殘存するが如きことあらば、大東亞新秩序の建設も百年河清を俟つに等しい。この意味において國體の明徴と日本世界觀の昂揚とは離るべからざるものである。



コレヒドール要塞の陥落

大本營陸軍報道部

比島方面帝國陸海軍部隊は五月五日午後十一時十五分コレヒドール島要塞に對する強行上陸に成功、五月七日同島及びマニラ灣口諸島の全要塞を完全に攻略した。

勅諭

比律賓方面ニ作戰セル陸海軍部隊ハ緊密適切ナル協同ノ下ニ開戦初頭敵航空戦力ヲ撃退スルト共ニ諸方面ニ困難ナル上陸作戰ヲ敢行シ勇戦奮闘迅速ニ首都馬尼ラヲ占領シ又險要ヲ特ニ抵抗セル頑敵ヲ掃蕩シ以テ東亞ニ於ケル米國ノ根據ヲ覆滅セリ
朕深ク之ヲ嘉尚ス

長くも、大元帥陛下には、七日陸

海軍幕僚長を召させられ、南方方面陸軍最高指揮官並びに聯合艦隊司令長官に對し以上の如き優渥なる勅諭を賜はつた。

バタアン半島を席巻した皇軍は、周到な準備を整へて戦機を窺ふこと二旬餘、五月五日、端午の節句の夜を期して、コレヒドール島要塞に對する總攻撃を開始した。同夜十時四十五分バタアン半島南部よりわが巨砲陣の一齊集射が加へられ、同十一時彈道の下を滑つて第一回敵前上陸部隊は、同島

北側東寄りのインフアントリー岬(歩兵岬)とキヤバルリー岬(騎兵岬)との間に、機雷原を縫ひ、鐵條網を踏破つての勇猛果敢な敵前上陸を強行、同十一時十五分敵前上陸成功の信號彈が上つた。

次いで六日午前四時、第二回上陸部隊の強行上陸に成功、第一回上陸部隊と共に月明下の攻撃を敢行、午前十一時には島中央部の最高地點マリンタヒル要塞を占領し、敵の死命を完全に制したのであつた。

かくて猛攻に猛攻を續けるうち、七
日午前八時コレヒドール島の全島及び
マニラ湖口諸島の全要素を完全に攻略
し、米東亞軍司令官中將ジョナサン・
ユム・ウェーレンライト、參謀長代將ル
イズ・シー・ビーブ、コレヒドール要塞
司令官少將モーア以下敵首脳部は悉く

捕虜となるに至つた。
敵前上陸以後、僅か三十二時間、要
塞攻略の世界戦史に比なき偉たる記録
である。
八日間で、バタン半島を失ひ、僅か
一日餘りでコレヒドール島を失ひ、米
國のはかなしい一練の希望もここに全く

消滅した。
かくて東亞に残存した米國の據地は
悉く消滅した。いまや全東亞から米英の
侵略の魔手は拂ひのけられて、東亞は
東亞人の東亞に還ると共に、帝國の必
勝の戰略態勢は更に強化されたわけ
である。

ビルマ作戦の進展

ビルマ方面の帝國陸軍部隊は、ラングーンを陥落せしめた後、三月下旬より新たに作戦行動を開始し、英、
東亞聯合軍を隨所に撃滅しつゝ北上を續け、五月一日遂にビルマ中央部の要衝マンダレーを攻略し、その軍
事據地を完全に崩壊せしめた。
またイラワヂ河岸の要衝フローム、油田地帯エナジョン等も既に我が手に歸し、五月四日にはインド、ビ
ルマ國境附近のアクィフ飛行場を占領、全ビルマの死命を制するに至つた。

攻略戦の經過

近代軍隊の通過不能といはれた峻
険な山嶽地帯を突破、三月八日首都ラ
ングーンを攻略して第一期作戦を終へ

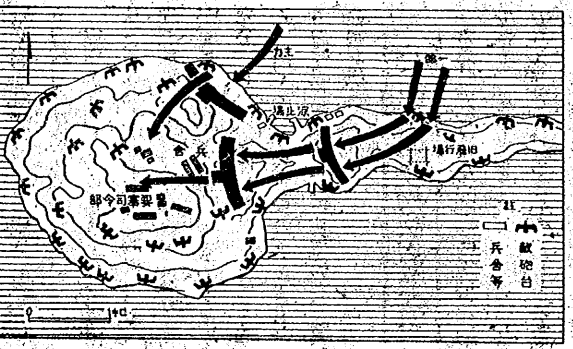
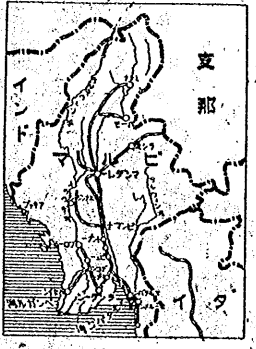
た皇軍は、企圖を秘匿しつゝ強力新銳
なる大兵團をラングーン地區に集結、
北方進軍作戦の準備を整へてゐたので
あつた。
當時、重慶軍はビルマルートに續々

南下し、主力はマンダレー附近に集結
すると共に、北部泰國境に三ヶ師を配置
し、わが軍の側背を脅威せんとする態
勢にあつたが、ラングーン攻略に當つ
て我が軍は、ことさらに重慶軍に背を

向ける態勢をとり、ラングーンに向つ
て南下したのであつた。
果敢なる重慶軍は、巧妙な我が術
策に乗り、わが軍の兵力が少くたうて
い北方作戦を開始する餘力なしとみ
て、續々南下して来たのである。支那
事變における經驗に徴しても明らか
やうに、重慶軍は精銳なる基軍との決
戦を避け、専ら待避戰術をことごと
るので、敵に誘ひの隙をみせ、重慶軍
を南下せしめたことは今次作戦の輝く
戰果の要因となつたのである。
三月中旬におけるビルマの敵兵力は
約八万で、重慶軍を主力とする四万五
千をラングーン、マンダレーの本道上
に配備し、殘餘の英印ビルマ聯合軍は
イラワヂ河流域に布陣してゐた。
この敵に對しわが軍は三月十日前後
から逐次攻撃を開始し、本道を北進し
た部隊は三月二十四日ラングーン(ラン
グーン北方百五十キロ)南方で重慶軍第

二十一で第二師團と遭遇、激戦の後
二十六日午前九時四十分ラングーンを占
領、さらにラングーン北方の數線に亘る堅
固な陣地によつて我が進軍を喰止めよ
うとする敵を猛攻、これに壊滅的打
撃を與へた。
イラワヂ河に沿ふフローム街道を進
撃した部隊は、三月二十六日バウンデ
附近で精銳を誇る英軍機械化部隊と
遭遇、これを撃破して四月二日午前三
時三十分イラワヂ河岸の要衝フローム
を完全に占領した。
飽くまでも我が兵力を過少評價して
ゐた敵は、その後もラングーン、マン

ダレー本道上に續々と主力を集中して
来たが、わが軍は同方面の敵に緩徐な
攻撃を加へて敵を牽制する一方、隱密
裡に重慶軍を一舉に捕捉殲滅せんとす
る、驚天動地の作戦準備を着々と進めて



むたのである。

即ち日泰聯合軍を以て北部ビルマ國境附近にある四十九、九十三兩師を中心とする杜聿明の第六軍に對し牽制作戰を行つてこれを國境に釘付けにする一方、新銳の機械化兵團を秘かに本道後方に集結して、マンダレー附近の敵第五軍と北部泰國境の第六軍との中間突破を企圖したのである。突破兵團は四月二十日その先遣部隊が敵第五、六兩軍の連絡地點であるロイコに達するや、猛然たる急進撃を起し、一日七十數キロといふ神速さを以て一舉に敵中を突破、四月二十九日天長の佳節の正午には北部ビルマの要衝ラシオに突入した。

この中央突破作戰は全く敵の意表を衝いたもので、これによつて敵第五、六兩軍は完全に分斷され、本國への退路たる滇緬ルートも遮斷された敵は周章狼狽、忽ち收拾すべからざる混亂

に陥つた。

この機を逸せず、敵を牽制しつつ北進攻撃中の本道上の部隊は、一舉に敵の本據マンダレーを衝き、五月一日午後六時二十五分これを占領したのである。またイラワヂ河の戦線では、四月十七日ブローム北方エナンジョンで、逆襲し來つた英印重慶軍五千の機械化部隊と戦闘を交へ、敵の遺棄死體二千六百七十、捕虜千六百餘といふ機械的打撃を與へると共に、マンダレー西北方において敗敵の捕提殲滅に活躍した。

いまや中央、左右兩翼の三兵團呼應して北シャン高原一帯において残存重慶軍を殲滅中であり、さらに一部は國境を突破して雲南省深く突入した。今次ビルマ作戰の如き至妙なる作戰は皇軍にして初めてなし得るところで、世界戦史にも比類なきものといへよう。なほインド國境を去る僅か百キロ、ビルマ第五の都會でインドとビルマを

繋ぐ空軍の中間基地たるアキヤブも、五月四日皇軍に占領された。

本作戦を通じて陸軍航空部隊の活躍は目覚ましいものがあり、戦車爆撃に、地上部隊の攻撃に、密接に協力したが、さらに敵空軍勢力と軍事據點殲滅のため、ビルマ領内の敵飛行場はもろろん、遠くインド洋方面のチタゴン（カルカタ附近）飛行場にまで飛び、巨弾の雨を降らせた。

ビルマ進攻作戰の意義

重慶第五軍は重慶唯一の機械化部隊であり、第六軍もこれに次ぐ優秀部隊である。この兩軍を失つたことは軍事的にみて蒋介石にとつて最大の打撃であらうが、元來、蒋介石は戦路上といふよりむしろ政略上ビルマ派兵を行つたもので、マンダレー地區を占據することによつて、北インドとの連絡路を確保し、英米からの物資を確保すると共に

に、エナンジョンの石油、ビルマの米を得んとする一石二鳥の狙ひであつた。

その標榜ビルマルートが今や完全に封鎖され、英國と重慶との聯絡が切斷されるに至つたのである。重慶は文字通り孤立無援の状況に陥り、今後の抗戦力は専ら重慶内部に依存せねばならなくなつたわけである。

一方、陸軍部隊のインド進攻態勢の確立は、海軍部隊のインド洋制壓と相俟つて、英國に對しても深刻な打撃を與へ、老英帝國の苦悶動搖は深刻なものがあるであらう。

ビルマ作戰の特長

作戰の特長性については既に述べたが、ビルマ地方は他の作戰地とは異つて、極端なる炎熱と悪疫のいはゆる瘴癘の地である。ビルマ奥地における暑熱は百三十數度の酷熱の連続で、しか

も最も耐へ難き暑さだといはれる。マラリヤ、デング病等の悪疫も蔓延し、「ビルマへ来て、デング病に罹るのは税關で納税するやうなものだ」といはれるが、これに罹ると四十度前後の高熱を一週間餘も忍ばねばならない。わが軍の中にはこのデング病に罹りながら發熱を耐へてまで進軍した指揮官もあつた。この暑氣が將兵の士氣を鼓舞し、進軍速度を速めたのである。

第一線將兵はかかる炎熱と悪疫を克服して進軍したのである。しかも米以外は軍用に供すべき現地物資が殆んどなく、給養は頗る困難な状態にあつた。進攻作戰の陰に將兵の筆紙に盡し難い勞苦のあることを忘れてはならない。

なほビルマ民衆の皇軍に對する獻身的な協力は涙ぐましいものさへあつた。ビルマ義勇軍がわが軍と密接に協力した功績も後すべからざるものがある。ビルマ義勇軍はわが軍のために

寫眞週報

- 後方擾亂等に活躍した。
- 最後は本作戦期間中、泰國軍が同盟國の信義によつて、北部泰國境の僻地に作戰して敵を牽制し、わが軍に協力したことに對して國民的感謝を捧げねばならない。
- 首級を獲るに
- 德軍新設後の大編隊前都訪問へ
- 英甲級巡洋艦二隻つひに
- ベンガル海上に撃沈す
- 全島嶼のクリスマス島を占領
- マンダレー近く、決死の敵前架橋
- 誌上欄の陣中新聞「新馬來」
- 兵隊さんへホクラガカイタ慰問エハガキ
- 今が出陣のサイゴン米
- 近代タイ紹介
- 寫眞と坪上大使の記事
- 日本に學ぶタイ國慶祝使節一行
- 街から街へ子供たちを訪ねて
- 移動幼稚園
- 東京市
- その他

五月十三日發行



西南太平洋作戦の進展

大本營海軍報道部

モルッカ諸島を攻略

わが海軍部隊は、陸軍部隊のビルマ作戦に並行してモルッカ諸島から、西部ニューギニアの諸要地を次ぎ／＼に占領し、また海軍航空部隊は、ニューギニアのポート・モレスビー、濠洲本土北端のホーン島等に連続的な痛撃を加へるなど、着々戦果を擴大し、北濠一帯に深刻な脅威を與へてゐるのである。

十九日には同方面の諸要地を完全に占領し、わが戦略態勢はいよ／＼鐵壁の固きを加へ、大東亞海制覇に最後の仕上げがなされたといへる。

いまわが手に歸した諸要地を列記すると次ぎの通りである。

マプテ、セラム島の要地で、油田用の大規模な採油突塊七ヶ所あり、その他飛行場、發電所、病院等の設備も完備し、相當大規模な採油計畫が進められていた模様である。

マンラ、西部ニューギニア西端の要地である。

マバボ、ニューギニアの西端に位し、二

年前より採油業者一千名にのほり、相當な採用を行つてゐたやうである。

マソロン島、西部ニューギニアにあり、住民約四百、附近に民間飛行場もあり、油田計畫並びに採油施設らしいものがあつた。

マテルサテ、ジロ島の西端、中央部の要地、テルナテ王の威令行はれ、同王は日本に對し、全面的忠順を誓つてゐる。

マノクワリ、ニューギニア北部にあり、官衙、電信所、發電所、倉庫、水道等の施設や、備はり、同方面の要地である。

マモミ、ニューギニア北部の要地、オラ

ンダ政府經營のゴム園一帯は、わが偵有に歸した。附近には南洋興發會社の農園がある。

マセルイ島、ニューギニア北部にあり、附近に飛行場、電信所あり、樹脂、ゴム、鐵樹、コブラなどを産す。

マナビル、ニューギニア北部の要地。

マサルミ、南洋興發會社の農園あり。

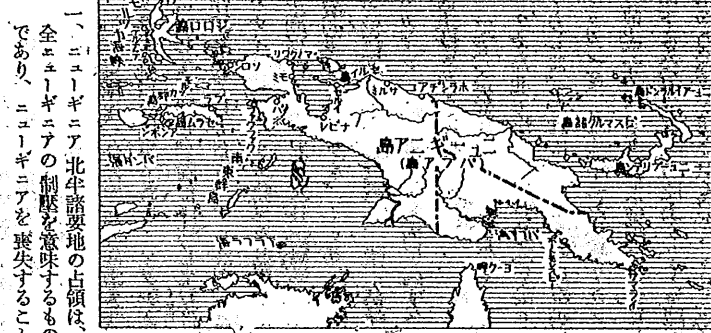
マホランガナ、東部ニューギニアと西部ニューギニアの境にあり、電信所がある。

米濠の連絡に痛撃

モルッカ島並びに西部ニューギニア北半の攻略戦によつて、大東亞海に残存する敵兵力を清掃したものであるが、この作戦によつて、濠洲を最後の足場として、對日反撃作戦を企圖せんとする敵兵力に對して、深刻な脅威を與へるに至つたことを見逃してはならぬ。

濠洲に據る敵兵力に對して、何故に今回の作戦が深刻な脅威を與へてゐる

かといふに、大體つぎのやうな點がけられる。



一、ニューギニア北半諸要地の占領は、全ニューギニアの制壓を意味するものであり、ニューギニアを喪失すること

は、濠洲防衛の外郭陣地喪失を意味するものである。

一、モルッカ諸島の要地喪失によつて、濠洲を基地とする發動據點は完全に一掃され、大東亞海におけるケリラ戦の餘地がなくなつた。

二、すでにニューブリテン島、ニューイランド島の攻略によつて、米・濠の連絡線は深刻な脅威にさらされてゐるが、わが勢力のニューギニア北半より南半への浸透は、ポート・モレスビーへの猛爆と相まつて、米・濠連絡線遮断の態勢を整へるに至つた。

ところで更に注目すべきは、前述の通り攻略した要地は有望なる油田にめぐまれてゐることで、資源戦において、わが方はいよ／＼強固な地歩を確保するに至つたことである。

わが海軍部隊の作戦の進展に、米・英・濠の狼狽は蔽ひ得ないものがあるが、わが陸軍のビルマ作戦の驚異的展開によつて、いよ／＼深刻化し、濠洲

の各新聞紙は、ビルマ戦線における聯合の敗北をもつて、「第二のシンガポール」と断じ、

「日本がビルマを抑へれば、イギリスの戦力よりみて、日本はその餘剰兵力を遠洲へ轉用するに至るであらう」

と、自らの想像にすつかり戦慄してゐる有様である。西南太平洋聯合上陸軍司令官ブレイミーは

「日本海軍は、遠洲北邊を圍繞する島嶼をさらに強力に固めた」と、悲鳴をあげ、日本海軍による米海軍兵站線遮断を極度に恐れてゐるのである。イギリスのデーリーメール紙も「われらは聯合國側が、この國に送り得るかぎり總ての兵力と武器とを必要とする」と

と、例のやうに筆先だけでは盛んに遠洲救援の急務を力説してゐるが、具體的對策は立たぬらしい。

航空部隊の活躍

海軍部隊は、比島方面における敵艦リヲ戦最後の據點であるミンダナオ島に對しても陸軍部隊に呼應して果敢な作戦を展開してゐる。すなはち、セブ、パナイ及びギマラス諸島を制壓したわが海軍部隊は、五月三日拂曉進攻、同島北岸のアカハラル、イリガン兩灣一帯の海面を完全に制壓し、陸軍部隊のカガヤン、タゴロアン方面に對する敵前上陸を強力に掩護した。

一方、航空部隊の協力を得て、ミンダナオ島北方海上に、封鎖陣を張りめぐらした。これによつて、同島の殘敵はダヴァオ、コタバト並びにイリガンの海上三方面より、海軍部隊の完全な包圍下に入つたわけで、陸上よりする陸軍部隊の猛攻と相まつて、その全面的潰滅は、いまや時間の問題にすぎない。さらに海軍航空部隊は、ニートギ、

アのポート・モレスビーに對し、連日のやうに反復爆撃してゐるのであるが、四月三十日には、遠洲本土北端のホー

ン島に、痛烈な第二次爆撃を加へ、また同日、他の二隊は、ソロモン島ツラギを爆撃、いづれも敵軍事施設に多大の損害を與へた。

なかでもポート・モレスビーに對する爆撃は、もつとも猛烈で、四月二十六日から二十九日までの四日間に、米英から増援された新鋭機のカーチスP三九型、P四〇型、スピットファイアー等二十二機を撃墜破し、さらに五月二日には、ニートギ、島東端サマライにおいて、轟動の敵十四機と交戦、數十分わたる激烈な空中戦の結果、敵十四機中八機を撃墜、アメリカが「空の要塞」と誇號するポートインジグB一七型一機と、カーチスP四〇型一機に大損害を與へるといふ戦果をあげ、士氣いよゝ旺盛である。



市町村會議員の選舉について

内務省

衆議院議員の總選舉に引續いて、本年は五月以降全國大多數の市町村で市町村會議員の選舉が施行されることになつてゐる。大東亞戰爭完遂の必須の要件である國內政治體制の強化確立のためには、一面中央における清新強力なる翼賛議會の確立と共に、他面地方自治の刷新強化が並行せねばならぬ。そして今次の市町村會議員選舉こそは大東亞戰爭の完遂と地方自治の刷新強化を期する絶好の機會である。

今次の衆議院議員總選舉を機として展開された翼賛選舉貫徹運動が、征戰完遂の氣魄に燃える一億國民の翼賛の至情を發露し、劃期的な成果を收めて終了したことは周知の通りであるが、この秋に當り我々は、さらに市町村會議員の選舉といふ銚後における自治公民としての試練に逢着してゐるのである。内務省では戦時下における地方自治の使命がいよゝ重大であるに鑑み、引き續いて行はれる市町村會議員

選舉に際しても、衆議院議員選舉における翼賛選舉貫徹運動の趣旨に則り、市町村會議員選舉對策大東亞戰爭完遂翼賛選舉貫徹運動基本要綱を定め、これにより各市町村において、それ地方の實情に基づき大東亞戰爭の完遂と、地方自治の刷新強化を目標とする適切な啓蒙運動が活潑に展開され、この選舉が地方自治體制の劃期的な強化刷新を實現する活機となることを期待することになつたのである。

なほ今次の市町村議員の選挙は、議員の任期が五月二十日を以て満了するものが大多数を占めてゐるので、任期満了後、直ちに選挙を行ふとすれば、衆議院議員選挙後除すところ極めて僅かの日数の間に選挙運動を展開することとなり、かくては選挙選挙の貫徹は困難となるので、特に本運動實施の必要から選挙期日を必要限度において延期し得ることとした。

運動の目標

本運動の目標は大東亞戦争の完遂を根本目標とし、國家總力發揮の基礎である地方自治の刷新強化を直接の指標として、市町村議員選挙が施行されるに當り、重大時局に對處すべき選挙選挙の貫徹を期さんとするのである。

大東亞戦争完遂が今日國家萬般の施

策の目標であることは今あらためて説明を要せぬところであり、而して大東亞戦争完遂のためには、外に勝つたる武威の發揚と相俟つて、内に國內諸體の整備強化が絶対に必要なのである。なかんづく、國內政治體制の強化確立は諸體制強化の基礎的條件をなすものとしてこれが實現を期せねばならない。

しかして國內政治體制の整備強化のためには、中央地方を通ずる議會の體制を、大東亞戦争の大目的に副つていよいよ大政翼賛の本義に徹せしめねばならぬのである。いまや中央には清新強力な翼賛議會が確立され、その發足を見ることとなつたが、つぎに來るべき市町村議員選挙においても、地方議會における翼賛の重責に任ずべき人材を市町村會に動員し、以て地方自治の刷新強化を圖り、大東亞戦争の完遂に資せしめねばならぬのである。

運動の基本方針

大東亞戦争の完遂と國民士氣の昂揚

運動基本方針の第一は選挙を機として必勝の國民士氣を昂揚し、大東亞戦争完遂に對する舉國鐵石の決意を強固ならしめるにある。戦争には國內におけるあらゆる施策と、あらゆる機會を戰爭完遂の原動力として活用し動員しなければならぬ。市町村議員選挙もまた國民總力結集の絶好の機會であるから、選挙を機として大東亞戦争の歴史的使命遂行に關する國民の認識を徹底し、敵の窮餘のギリラ空襲の如きに聊かも動搖することなき必勝の信念を堅持し、いよいよ士氣を昂揚して舉國戦争完遂に邁進するの決意を強固にしなければならぬ。

清新健實なる市町村會の確立と愛郷精神の振起昂揚

基本方針の第二は、清新健實なる市町村會確立のため、市町村民の眞摯純正なる愛郷精神を振起昂揚せしめることである。

本運動の目標は先にも述べたやうに、大東亞戦争下における地方自治の刷新強化にあるのであるが、市町村自治の刷新強化を圖るには、まづ清新健實なる市町村會を確立せねばならぬ。大東亞戦争下いよいよ地方自治の刷新強化を必要とする際、市町村自治の中核をなす市町村會をして時局の新段階に對處し、いよいよ清新健實ならしむることは最も必要である。而して今次の運動においてはかゝる清新健實なる市町村會確立のため、大東亞戦争完遂の決意に燃ゆる全市町村民の眞摯純正なる愛郷の至誠が力強い愛郷精神

となつて振起昂揚されねばならぬ。市町村は國家の根幹であり、國政百般の基礎である。殊に戦時下における一糸紊れない舉國一致體制の基礎となつてゐるものは市町村であり、市町村長を中心とする市町村民一體の觀念である。従つてこの選挙の機會において、市町村民は愛郷精神の昂揚により、市町村政に對する一層の熱意を以て一致團結いよいよ戦時下地方自治の遂行に邁進しなければならぬ。

最適人材の市町村會への動員

基本方針の第三は、大東亞戦争完遂の大目的に副ひ、眞に地方議會における翼賛の重責に任ずべき最適の人材を市町村會に動員するの氣運を醸成せしめることである。清新健實なる市町村會を確立するの方便は、時局下地方議會における翼賛の重責に任ずべき最適有爲の人材を市町村會に動員するのほ

かにはないのであるから、かゝる最適有爲の人材を一人でも多く現實に市町村會に動員する氣運を全市町村民の間に醸成せしめることが本運動の重點である。さきの衆議院議員選挙において我が國最初の試みとして行はれた適材推薦の方法は、劃期的な成果を収めたのであるが、今次の市町村議員選挙においても全市町村民は、地方選挙にみられる積年の舊弊を打破して、眞に時局認識に透徹した大政翼賛の熱意と實行力とに富む人材を動員するやう工夫を拂はねばならぬ。

選挙の倫理化

基本方針の第四は、重大時局下の選挙に際して、いよいよ選挙の倫理化を徹底し、斷じて在來の情弊を一掃し、公正にして明朗なる選挙を實現せしめることである。清新健實なる市町村會を確立するた

めには、選挙の倫理化を期すべきは地方自治の本義に鑑み當然の先決要件である。過去における選挙界の實情をみるに、或ひは情實因縁に捉はれ、或ひは買収、察應、その他利害關係によつて左右された例に乏しくない。かゝる情實因縁、利害計算等、在來の情弊は斷乎一掃して、眞に清朗な自治の郷土を建設するため公正明朗なる理想選挙を實現せしめねばならぬのである。

運動の實施方策

啓蒙運動の徹底

運動實施方策の第一は啓蒙運動の徹底である。即ち本運動は、前述の基本方針に則り、大東亞戦争の完遂、地方自治の刷新強化、翼賛選挙の貫徹を目標とする啓蒙運動として、部落、町内、市町村下部組織は勿論、

市町村内各種團體その他あらゆる組織を動員して、活潑なる運動の展開を期さんとするのである。

なかんづく本運動は部落、町内、市町村下部組織に根柢を有する全市町村民の積極的運動として展開され、全市町村民が眞に翼賛市町村會確立の熱意に燃えることが不可欠の要諦である。啓蒙運動の徹底、これこそ翼賛選挙實現の如何を決定する最大の要件である。

啓蒙運動の展開に當つて、選挙運動に互らざるやう注意を要することはなほこゝに申すまでもない。

候補者推薦氣運の醸成

運動實施方策の第二は候補者推薦氣運の醸成である。即ち翼賛選挙貫徹の啓蒙運動として最適切なる方法によつて、眞に純正有力な候補者の成立を

期せしむることである。本運動の主眼たる最良人材の市町村會への動員を實施せしめるには、まづ最良の人材を候補者として立たしめねばならぬ。こゝに最良候補者推薦の必要があり、かゝる氣運を積極的に醸成せしめねばならぬのである。

銓衡會の成立

本運動はこの推薦氣運を具體的に實現する方法として、純正にして有力な候補者銓衡會の成立を期待してゐるのである。最良の人材を候補者として推薦する方法として最近各地の市町村會議員選挙において候補者銓衡會を開催してゐる例が多いが、その成果は極めて良好である。

そこで銓衡會を成立せしめる方法であるが、銓衡會を成立せしめ、その組織や運営の方法を如何にするかは、市町村常會または全市町村の啓蒙運動團體

(例へば市の場合なら翼賛市政建設同盟といつたやうな) または選挙對策の協議會等、市町村民の信頼できる公正な集會において市町村長の指導の下に協定するを適當とするが、たゞ銓衡會の成立については左の諸點について注意を要する。

(一) 銓衡會は最適切候補者推薦の氣運が醸成された結果、一般選挙民の輿望に副つて成立をみるべきものであるから、銓衡會の成立前に活潑な啓蒙運動を展開する必要がある。

(二) またこゝに銓衡會は、議員候補者たるべき者と銓衡する會合であるから、選挙運動と異なること勿論であるが、また翼賛選挙貫徹の啓蒙運動と銓衡會の行ふ銓衡そのものはこれまた區別すべきである。従つて市町村長等は銓衡會の成立を慫慂し、または召集する等、斡旋することは差支へないが、銓衡會そのものに加は

らないのが適當である。また同じく啓蒙運動に協力する大政翼賛會等において開催せざるが適當である。

(三) 部落會、町内會等を議員定數割當または議員候補者銓衡委員の選出を行ふための區域として活用するのは固より差支へないが、市區町常會、部落會、町内會等を以てそのまゝ、議員候補者の銓衡會とすることは特に弊害を生ずる虞のない場合の外はこれを避けねばならない。

銓衡會の作り方

次に純正有力なる銓衡會の成立については、道府縣廳の指示に従ひ、當該市町村の實情に應じた適切なる方法によるべきである。從來から行はれて來た正常な舊習はなるべく尊重することが適當であるが、推薦制を徹底するために必要なるべく組織的な銓衡方法

をとつて眞に選挙民の輿望に副つた方法によるべきである。銓衡會の作り方は市會と町村會では趣きが異なるが、その方法には次ぎのやうな方法がある。

市會議員選挙の場合

(イ) 地域的に選び上げた代表によつて銓衡する方法
町内會等から順次選ばれた數名の銓衡委員によつて全市的銓衡委員を作り候補者を銓衡する。

(ロ) 有志の代表によつて銓衡する方法
市内の有力者、團體長等の有志による銓衡會を組織するかまたはこの人々によつて銓衡委員を選ぶ方法。
この方法は情實因縁に陥り易く

また選挙民の意志を十分反映せざるに陥る危険がある。

(イ) 地域代表と有志代表の混成による銓衡方法

この方法(イ)、(ロ)の長短を補足し地域、職能、人物等を考慮に入れ、全市的に眺めて最適の人材を選び出すには最も好適の方法である。

以上は全市的に銓衡が行はれる場合を記したのでこれを原則としたいが、事情により大都市等においては銓衡者を地域的に割當て銓衡し、地域から全市へと複次的に候補者を銓衡する方法が採られることもある。

町村会議員選挙の場合

(イ) 地域別に議員定数を割當て地域別に割當てられた候補者の定数を直ちに銓衡する方法
これには二つの場合がある。

(甲) 地域内全選挙人の總會において候補者を銓衡する場合

農村における小部落等では正常な慣習に基づき、かうした簡素な方法で圓滿に良い候補者が得られるならば結構である。

(乙) 地域的に選ばれた銓衡委員によって地域別に候補者を銓衡する場合

大きな町村の場合は部落、町内會等の地域から代表者を擧げて聯合町内會、行政區または學校區等の地區に銓衡委員會を設けて割當てられた候補者を決定する場合もある。

(丙) 全町村に組織的に銓衡委員會を設けて候補者を銓衡する方法

候補者の銓衡を町村内を分割した地區で直ちに決定しないで、全町村的に統制のある銓衡委員會を設ける方法で、これには前記の市會議員選挙の場合と同様に(イ)(ロ)の方法があり、さらに地區から全町村へと複次的に銓衡を行う方法がある。

次に選挙民の意志を十分反映せざるに陥る危険がある。

(イ) 地域代表と有志代表の混成による銓衡方法

この方法(イ)、(ロ)の長短を補足し地域、職能、人物等を考慮に入れ、全市的に眺めて最適の人材を選び出すには最も好適の方法である。

以上は全市的に銓衡が行はれる場合を記したのでこれを原則としたいが、事情により大都市等においては銓衡者を地域的に割當て銓衡し、地域から全市へと複次的に候補者を銓衡する方法が採られることもある。

銓衡會の開き方

(1) 期日 なるべく選挙告示の前夜に近接して行ふことが適當である。出来れば告示の前日に銓衡が終るやうに取運ぶことが最も望ましい。
また、銓衡委員を決定した場合は、なるべく時日を措かず迅速に候補者の銓衡決定をすることが必要である。
間があると、違反行為が現れたり、いろいろな弊害を生ずる虞れが多い。

(2) 會場 なるべく神社、佛閣、學校、役所等を選び、辨當や茶菓等は簡略第一を旨とすべきである。

(3) 集會届出 銓衡會を開催する場合は、人数の多少に拘はらず開會六時間前に、管轄警察署へ届出を要する。銓衡會に出席する銓衡委員を選出するための會合でも、二十人以上の場合にはまた同様である。

(4) 選人の心構へ 選挙人が直ちに候補者を選ぶ場合、または銓衡委員たるべき代表者を選ぶ場合、或は銓衡委員が候補者を選ぶ場合等、いづれの場合でも私の義理や情實に拘泥することなく、市町村公民たるの立場において最適の人材を選ぶべきことを神明に誓つて厳肅に銓衡すべきである。

銓衡委員や議員候補者に真に市町村民が信頼し納得するやうな人が選ばれるか否かや、銓衡會の効果を決する鍵である。

(5) 銓衡の仕方 次ぎのやうな方法が考へられるが、實情に即して適宜に定めるべきである。

(イ) 投票によるもの 選挙する人が非常に多数の場合は単記無記名によるほかにないが、選人が割合少く、選ばれる人が二名以上のやうな場合は連記無記名による方がよい。

この方法は手数がかり、勧誘その他不正手段の行はれる場合もあるが、割合公正に行はれる。

(ロ) 少数委員に附託するもの 投票を用ひず、座長の指名等で数名の委員に人選方を委任し、委員は一同の休憩中に審議決定の上報告終了する。

(ハ) 座長の指名によるもの 圓滿で平和な地域に行はれる形であるが、往々にして、有力筋の専断に陥る虞れがある。

(ニ) 自由討論によるもの 最も理想的ではあるが、會同者の多数の場合には不可能であるし、また、司會者の如何によつては時に特定候補者のため

め推薦運動に利用される場合があるから注意を要する。

(3) 銓衡結果の告知發表 銓衡會において銓衡された候補者名をその席上で發表すること、および會同者に信書または機械的人夫による廻状によつて通知することは差支へない。しかし回覧板を使用したり、口頭で戸別に通知すると違反になる。立候補の勸誘や推薦受諾の結果を會同者に通知することも同様である。この際、推薦候補者に投票を依頼したり、強要したりしてはならない。また會同者以外に對する發表通知は絶対に避けねばならない。も

つとも市會選挙の場合銓衡された人が候補者としての届出をした後は、第三者として推薦状による選挙運動が出来ないのであるから、この推薦状の形で、推薦者の一人または数名を以て連名で選挙人一般に周知させることは一向差支へがない。また町村會の場合も選挙の

むすび

以上、本運動の要綱について説明したが、これを要するに市町村會議員の選挙を機とし、市町村民は大東亞戦争下における地方自治の使命がいよいよ重大なることを深く認識すると共に、愛郷精神の昂揚によつて市町村行政に對する理解と熱意を一層喚起し、全市町村民がいよいよ協力團結し、戦時地方自治の責務遂行に邁進しなければならぬ。全市町村民の賛賛の熱意と愛郷精神が、この機会にこそ眞に力強く昂揚され、来るべき市町村會議員の選挙に際しても衆議院議員の總選挙にも勝る大なる成果が挙げられ、大東亞戦争下におけるわが國內體制にいよいよ磐石の重きを加へんことを期待するものである。

告示後はこの方法によることが出来る。
なほ銓衡會の狀況（銓衡者の順位、銓衡當否の事情、次點者等）を發表することは弊害を生ずる虞れがあるから避くべきである。

選挙の倫理化と戦時態勢化

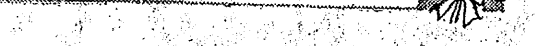
實施方策の第三は選挙の倫理化と戦時態勢化である。即ち重大時局下の選挙に際し眞に衆贊選挙の實を挙げしむるため左の如き方途によつて選挙の倫理化と、戦時態勢化を期さんとするのである。

- (一) 選挙に關する在來の情實因縁を斷乎一掃し、選挙の公正を期せしむること。
- (二) 一般選挙民の自覺を喚起し、選挙犯罪の根絶と棄權防止に努めしめること。
- (三) 選挙運動關係者に對しては自肅、同断であるから詳しい説明を略すること。
- (四) 戦時に即應し選挙運動上物質、勞力等の節約と運動方法の改善合理化を計ること。
- (イ) 部落會長、町内會長（聯合町内會長を含む）は、關係區域内においては選挙運動を行つてはいけない。もしそれらの人が自ら候補に立つ場合には、豫じめ自發的にその職を辭すべきである。
- (ロ) 從來のやうな仰々しい選挙運動はつとめて行はず、推薦狀、演説等も出来るだけ簡素にしたものである。
- (ハ) 選挙費用は極力節約したい。特に推薦候補者のために發送する推薦狀やポスターなどの費用は、候補者に負擔させず、推薦者側で負擔するやうにしたい。

以上選挙の倫理化、戦時態勢化については大體、衆議院議員選挙の場合と同断であるから詳しい説明を略すること。

健康民運動 戦時下の結婚

厚生省



誰が出来ただけ早く結婚して、澤山の優れた子供をまうけることが肝腎です。
ご承知のやうに、政府では昭和十六年一月に人口政策確立要綱を決定して、現在の國民の平均初婚年齢、男子二十八歳、女子二十四歳を、この十年間にそれ〱三歳づゝ早め、また一夫婦に平均五人の子供を擧げて、昭和三十五年までに内地人の人口を二億にしようといふ方針を固めました。

結婚観の是正

支那事變が始つてから澤山の青年が出征したり、海外に進出して來てゐますので、結婚するのが難しくなつたことは確かです。東亞共榮圈を建設するには、その盟主である私たち日本人の人口をもつと増強することがぜひ必要です。そのためには、私

だいたひ明治の初め頃には、男子は二十五歳以下、女子は二十歳以下で結婚してゐたもので、それが今日のやうに晩婚になつて來たのは何故でせうか。それは、いろいろと原因があるでせう。修學期間が長くなつたこと、經濟生活の難しさといつたことも確かに影響してゐるでせうが、それよりももつと大きな原因は、結婚に對する私たち國民の觀念が變つて來たことです。
いはゆる自由主義、個人主義の思想が國民の心裡にはびこり、物質的な慾望が昂まるにつれて、自己本位、享樂本位の傾向が著るしくなり、殊に若い男性の間には、享樂を追つて結婚を怠つたり、結婚後の文化生活を夢みて、地位や収入の向上するのを待つて結婚を遅らしたり、また無暗に相手を選り好

は、家を中心とした家族主義で、家系を承け継ぐことに重点をおいてゐますから、自然、親連が干渉する媒酌結婚の形式をとり、早婚や多頭が喜ばれて來てゐます。「早く嫁を買つて初孫の顔が見たい」といふのが日本傳統の家族感情で、この氣持がやがては人口の増加となり、家族國家の礎は固く、今日みえるやうな萬邦無比の日本を形づくつてゐるのです。

結婚相手の條件は

ところで相手を選ぶには、浮ついた夢のやうな氣持を捨て、質實な心構へで臨まねばなりません。相手とすべきものは、その家柄でもなく、財産でもなく、地位でもなく、學歷でもなく、また容貌でもありません。それは相手の人物でなくてはなりません。つまり相手が心身ともに健康であることです。精神士に缺陷があつたので、決して幸福な家庭生活を営むことは出来ません。精神病とが精神薄弱といつた著しい精神異状者は勿論のこと、智能が低めたり、意志が薄弱であ

つたり、また智能は優れてゐても、道徳的に缺陷があつたり、情愛に乏しいやうな人物は、相手として第一に避ける必要がありま

結婚相手をすべきです

大結婚をすべきです。西洋諸國とは違つて、わが國では殆んどが媒酌結婚でありますから、結婚の難航媒介が、殊になつては、結婚を感んずることとは出来ません。國家が結婚の促進を要求してゐる今日では、結婚の難航といふことは、もはや物好きな閑仕事ではなく、大切な國策に協力する奉仕事業であります。わが國には昔から「一生のうちには必ず結婚を謀らせよ」といふ諺がありますが、他人の媒酌で夫婦になれた者にとつて他人の結婚を難航することとは、社會に對する報恩であり、義務であるといへます。

結婚獎勵の機關

政府では、道府縣市町村を始め産業團體、社交團體、宗教團體、婦人團體等の各種の團體に

結婚獎勵の機關

對する結婚獎勵です。「國を護つた傷兵護れ」といふ標語は、何を指しても私達が實行せねばならぬ實務ですが、それにはこれらの勇士の妻となつて、その杖となり柱となつて一生を過すことは、日本婦人に課せられた最も重き任務であると思ひます。また、軍人以外で海外に活躍してゐる青年達も、結婚して一家を持ち、その地に腰を据えて存分の活躍を望んでゐるので、現地で配偶者を見付けるのが困難なために悩んでゐる有様です。ところが一方、内地では多くの女性が結婚難に悩んでゐます。これを解決するには、まず内地の女性とその両親達が、海外進出の意義と重要性を認識し、進んで大陸に、勇力に渡り、日本女性の本分を發揮することが大切です。若い女性が



るものではなく、かへつて縛られたる皇軍武威の下、相次ぐ敗戦に焦慮する英米の苦悶の足掻きを象徴するものに外ならない。

要するに、英軍今次のマダガスカル島攻撃は、敗戦につぐ敗戦のため、國內の反政府輿論を押し切れなくなつた英米當局者が打つた窮餘の一策にほかならず、全く對内消費用の宣傳の域を出でず、自己満足を求めるものの極みであるが、一方、英米側のかゝる暴舉は、當然佛國朝野をして輻軸との提携をますます積極化させるといふ逆効果を生じつゝある。貧すれば鈍するとか、かくて英米側は自身から進んで、最悪の途を擧進するに至つたものである。

島の概観

かくしてマダガスカル島は、今やセ

ロン島と共に、インド洋上の二大焦點として、國際視野に立たされてゐるが、古くは大ウエヌスの航海家マルコ・ポーロによつて、すでにその存在を重視されたものである。

彼について一五〇六年（後柏原天皇の御代）足利十一代義隆の頃、ポルトガル人が新たに発見してローレンス島と名付け、その後オランダ人及び英國人が來島し、フランス人もそれに加はり、一六四二年（明正天皇の御代）徳川三代家光の頃には佛領として宣旨されたが、土着の豪族ホヴァ侯をめぐり佛英間の争鬪は繰返され、ついに前世紀末の一八九四年（明治二十七年）から翌年へかけて佛軍は同島首府占領の舉に出で、時の同島統治者ラナヴァロナ三世女王はフランスの保護國化たることを承認、その後しばし先住土着民の叛亂が企てられたが成らず、一八九六年（明治二十年）に至り、フランスはマダガスカル

ル島を佛直轄領植民地として宣言し、今日に及んだのである。

その廣さ二十四万一千平方哩、わが臺灣島の十七倍半に相當し、グリーンランド、ニューギニア、ボルネオにつぐ世界第四の大島で、一九三六年の調査によれば總人口三百八十万、そのうち二万五千餘が佛人で、他の大部分はマラガシイと總稱されるマダガスカル島先住土着の諸種族である。

同島の海岸線は極めて單調で、東岸には僅に東北地點にアントンシル灣があるのみで、西岸にも西北地點に小出入あるのみであるが、北端は地頸によつて縫られた小半島が突出し、その東部をティエヌスアレスと稱し、本島第一の良港を成してゐる。

全島は山岳地帯に富み、山脈は東側に偏して南北に走り、東海岸の南部地帯は斷崖となつて海岸線を成し、西部一帯は廣い階段をなして海岸に向つて徐

徐に低下し平野となつてゐる。島内の氣候は、海岸寄り低地は濕熱な純熱帶的氣候を示し甚だ不健康地とされてゐるが、高地一帯は概して冷涼であり、内地は濕乾二季に分れ、十一月から翌年四月までは濕熱な雨季、その他は乾燥冷涼な乾季となつてゐる。

島民間には古くからキリスト教が傳へられ、その信徒數十万のうち四分の三が新教で、殘餘がローマ・カトリック教とされ、僻遠地の住民は未だ異教徒が多く、比較的回教が盛んである。

また、主要都市は、島内中央地點の首府タナナリヴ（人口十三万）を始め、西北海岸のマジャンガ港（人口二万餘）東海岸のクマタツ港、北海岸のディエゴ・スアレズ港等が目ぼしいものとなつてゐる。

なほ、同島は、南阿のグーベンより一千哩、同じくブレットリアより九百哩

の距離にあり、西インド洋一帯の航路はすべて同島近海を通るのみならず、南阿と西洋洲とを結ぶ航路も同島の南方近海を過ぎてゐるのである。

産業貿易

マダガスカル島の産業は農業において米・砂糖・ココヒー・マニョク・澱粉・玉蜀黍・カカオ・ウツア・煙草・豆類・丁香等を主産し、桑の木もあり養蠶が奨励されてをり、鑛業においては石炭・雲母・磷酸鹽・その他各種鑛石類を主産し、島内では絹及び綿織物・麥粉・椰子類・製糖・精米・澱粉等の製造工場もすでに開設されてゐる。

因みに、一九三八年度における同島輸出額は八億一千九百餘フラン（約七千六百万圓）、輸入額は六億三百万

ラン（約五千七百万圓）で、その主要品目は次ぎの通りである。

輸出	
ココヒー	三二・九%
ヴァニラ	九・一%
糖類肉類	七・〇%
皮革類	五・三%
砂糖	四・四%
丁香・香	四・四%
綿	三・〇・六%
燃料油	七・〇%
機械類	三・九%
鐵鋼類	三・三%
石炭	一・八%
セメント	一・六%

なほ、マダガスカルの國際貿易は殆んど全部といへる程、對佛通商一點張り、輸出の七割九分、輸入の七割七分までがすべてフランス本國との間に行はれて來たのである。

露光量違いにより重複撮影

出版文化協會

第七回推薦圖書

去る十日出版文化協會の第七回推薦圖書が左の通り發表されました。

- 児童讀物 港の旗 北原白秋 B六一〇〇 アルス
- 児童讀物 戦場の月 山本和夫 A五〇〇〇 中央公論
- 児童讀物 佐藤信淵 下村海人 B六一二〇 大日本堂
- 少年文學 國語の道 木後道一 B六一二〇 大日本堂
- 少年文學 大山元帥 本村 毅 B六一二〇 大日本堂
- 一般文學 アニリン シンチンガI B六一二〇 天然社
- 一般文學 商業本質論 大泉行雄 A五三三〇 同文館
- 一般文學 日本人形史 山田隆兵衛 A五三三〇 同文館
- 一般文學 生産擴充と利消統 山田 章 B六〇七〇 同文館
- 一般文學 ニューギニア探險記 金平 亮 B六二八〇 同文館

教學局選奨圖書

- 那門 日本住宅小史 關野 克 B六三〇 相模書房
- 那門 繪畫 藤野 野矢 A五四〇〇 存島會
- 那門 千葉周作遺稿 千葉 二郎 B六三〇 同文館
- 那門 勤勞文化 第 本 券 一 A五三〇 東洋書館
- 那門 皇室御經濟史の研 究 奥野 高廣 A五三〇 同文館
- 那門 地下水利權論 武田 雄治 A五三〇 岩波書店
- 那門 近世數學史談 高木 貞治 B六一二〇 河津書房
- 那門 萬葉集の研究 萬葉集の研究 同 編 藤 恩 A五三〇 同文館
- 那門 儒教倫理概論 藤 恩 之 吉 A五三〇 富山房
- 那門 日本彫刻史 小林 彌 B六一二〇 同人會社

週報	昭和十七年五月十三日發行	印刷局	東京市物産局 永田町一丁目一番地 印刷部
定 價	一部 五錢(送料一錢)	所 達 申	全国各地官報販賣所 書店・新聞店・驛賣店
注 意	▲本誌より贈報の場合は必ず「御希望何種より贈報」の旨を明記し、その特設誌を贈報局宛に御郵送三封筒送り下さい。 ▲本誌記事の無断転載は御断り致します。 ▲掲載記事に対する御希望や御断りに關しての御意見や御質問は御断りお知らせ下さい。 ▲本誌を他へお送りの方は送料一紙一錢を申し付けて下さい。	御 意	

貯蓄報國に

信託を利用する

御國の爲めに
一石二鳥
征戰の完遂に
生産力擴充
公債消化
資源開發
富強の基礎を
優秀なる人材の育成
「學資金の信託」
幸福なる家庭の建設
「結婚資金の信託」
堅実なる家業の設計
「独立資金の信託」

説明書贈呈

三井信託株式會社

本店 東京市東區橋本
支店 東京・大阪・京都・名古屋・福岡

編輯局報情

週報

號日十二月五

企業整備令の解説
 轉業のしるべ
 本年度の金屬特別回收
 緊迫する佛米關係
 珊瑚海海戰の意義

293號

昭和十七年十月一日第三種郵便物認可
昭和十七年五月二十日發
行 (毎週一回水曜日發行)

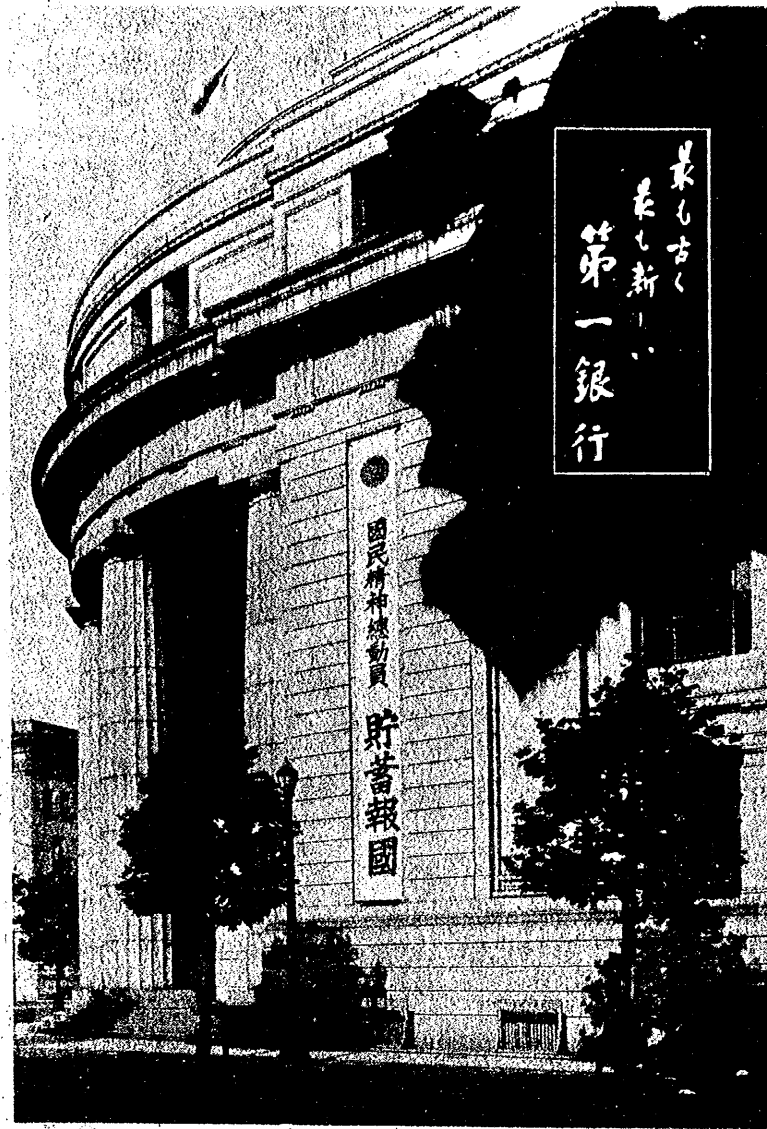
五錢

週報

昭和十七年十月一日第三種郵便物認可
昭和十七年五月十三日發
行 (毎週一回水曜日發行)

内閣印刷局印刷發行

週報は國民の道しるべ



(判[A5]格規定國はさき大の書本)